

令和4年8月3日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称
	代表者氏名 笠原 俊一
	(会派以外の場合) 議員氏名
参加議員	金崎 ひさ 議員 土佐 洋子 議員
	伊東 圭介 議員 荒井 直彦 議員
	議員 議員
	議員 議員
日 程	令和4年7月12日(火) ~ 令和4年7月15日(金)
視 察 先	(1) 沖縄市・沖縄アリーナ
	(2) うるま市・議会キッズノート・水上バイク隊・手話通訳隊について
	(3) 西原町マリンパークの運営について 那覇市営奥武山トレーニング室の概要と維持管理について
視察目的 (項目)	(1) 概要と経過
	(2) 作成された経緯と費用、市民にどのように告知されているか
	(3) 設立経過と運営について
【調査内容・概要】	
視察報告 荒井 直彦	
<p>視察先との調整で前日の夜から、沖縄入りをして、翌朝、10:00からの視察で沖縄市の沖縄アリーナに伺った。このアリーナは 現桑江市長の長年の思いで実になり完成したもので、市長の経歴は1994年から2006年まで沖縄市議会議員、2006年の市長選に立候補したが、落選してしまい、2008年から2期沖縄県議会議員を務められた後、再び2014年の市長選に出馬して初当選し、令和4年4月の市長選で当選し、現在3期目の市長である事が把握した。</p> <p>昨年の3月にも完成直後に視察依頼をお願いしたが、許可ならず、今回は、2回目の申請で、概要から、施設等、対応して頂いた。</p> <p>前回も総工費は162億と聞いていたが、その内訳を質問すると130億は特定防衛施設周辺交付金を利用してあとは、他の補助金を利用していた。</p> <p>土地だけは、沖縄市の問牛場の跡地を再開発して、避難所としての機能をその備えている。天井から510型の大型映像機器があり、その金額は10億と聞いています。との回答。今回の沖縄市の担当者の他に議会事務局の担当者も同行して頂いた。</p>	

また、沖縄市運動公園の当山総支配人とも会うことが出来た。

沖縄市のプロジェクトとして新規に近い将来に新しくオリンピック種目になる可能性をラクロスに力を入れて施設整備や大会等、誘致活動をしていくお話がありました。



午後からは、うるま市に視察 「議会キッズノート」 に関して

作成された経緯は令和3年1月に市議会議員からの提案で、議会事務局が調査、研究を開始し、同年5月6日に発表、経費はかからず、予算も計上していない。

現地で判明したことは、小学校の生徒向けには「議会キッズノート」対応し中高校生向けには 「ガイドブック」がある。すべて印刷物にはしていない。ホームページでの取り扱いで実施している。

この内容は、葉山町議会でも、取り組む事が可能だと思います。

実現に向けて、模索していきたい。

次の項目 うるま市機能別消防団について

平成28年7月に 沖縄県で初めて導入された。

沖縄市の消防団規則を全部改正し設置された。(詳細は添付資料参照)

①水上バイク隊 4名と手話隊2名(平成28年12月)

現在の在籍者 8名(令和4年6月)

②手話隊 市役所に勤めている会計年度任用職員

現在の在籍者 1名(令和4年6月)

③災害救助犬隊 5名

\*いずれも訓練は、定期的に行われている。(新型コロナウイルスの関係で自粛中)

2日目 浦添市クリード西原マリナーパーク

浦添市から指定管理で委託されている。(補助金は、頂いていない)

\*取り扱い金額は 総売上約1億6千万、7割がバーバキュー施設の売上げ

\*沖縄市民の方の利用が約95%で、持ち込みはすべて禁止されている施設。

\*補助金の活用は、現在は、頂いていないが、大きな台風被害等が発生した時には市の方と調整が出来ているので、お願いすれば、調整可能だと認識している。

\*ゴミのすべて、入場時に特性のビニール袋を渡し、管理されている施設。

その他 現地調査 ①対馬丸記念館 ②那覇市営奥武山トレーニング室



### ◎沖縄県 うるま市視察報告

伊東 圭介

・うるま市は、平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併して誕生しました。那覇市より東北へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接しています。東南に伸びる半島部の北方及び東方海上には、有人、無人を含めて10の島々があり、このうち5つの島は、海中道路や橋によって結ばれています。人口は、125,734人、世帯数は、55,806世帯です。農業等第一次産業比率が低い都市型の産業構造が特徴になっています。

### ◎うるま市議会ガイドブック・キッズノートについて

うるま市議会では、議会広報特別委員会が中心になり市民の皆様に市議会や市政に対する理解と関心を深めていただくことを目的に市議会の活動や仕組み、役割などについて解りやすくまとめた『うるま市議会—ガイドブック—』を発行していました。

さらに子ども向けに『うるま市（キッズノート）』も作成されていました。未来を担う子ども達にも市議会を身近に感じ、興味を持っていただき、まちづくりについて考えるきっかけになればとの思いで作成されたとのことでした。

その他にも「子ども議会」の開催、議場見学会等も実施して民主主義教育の一環として主権者教育につながるように、議会としては開かれた議会を目指し実施している

とのことでした。

#### ◎機能別消防団について

機能別消防団とは、それぞれの能力や技術を活かしながら、特定の消防団活動や時間の許す範囲で活動する団員のことです。

うるま市消防団においては、平成 28 年 7 月に消防団規則を全部改正し、特定の任務に限り従事する団員を「機能別団員」として配置できるよう制定し、基本団員と同等の活動（火災の鎮圧・火災の予防と警戒・救助など）ができない者が特定の活動・役割及び大規模災害時等に活動する団員を機能別消防団員として位置付けています。

平成 28 年 12 月に沖縄県で初めて「機能別団員」の辞令交付があり、6 名の入団がありました。この時点では、「水上バイク隊」4 名、「手話通訳隊」2 名でした。

水上バイク隊の任務は、

- ① 市内の水域（海・河川）で発生した水難事故への後方支援活動
- ② 市内で大規模浸水災害が発生し、救助を必要とした場合への対応
- ③ 水上バイクを活用した消防職員や消防団員との訓練への参加
- ④ その他消防団長が必要と認める活動

手話通訳隊の任務は、

- ① 市内で発生した大規模な災害において、聴覚障害者が被災した場合への対応
- ② 消防職員や消防団員への手話に関する訓練
- ③ その他消防団長が必要と認める活動

うるま市では、その後災害現場で活動する「災害救助犬隊」5 名も編成しているそうです。

#### ◎沖縄県 那覇市視察報告

##### ◎那覇市営奥武山トレーニング室

建設の経緯は、読売巨人軍春季那覇キャンプの受け入れ当初、トレーニング室がなかったため野球場内の会議室を 3 部屋利用してトレーニング室として代用していました。また、練習試合等においては、キャンプ運営に必要な部屋数に不足が生じたため、野球場外に仮設プレハブを 2 棟設置するなどの対応をせざるを得ない状況でした。

そこで那覇市は、スポーツコンベンションとして魅力向上、巨人軍キャンプの環境を整えるとともに、市民の健康増進を図ることを目的として那覇市営奥武山野球場の敷地内にプロ野球選手、市民、県民が利用できるトレーニング室を建設したそうです。

平成 26 年 1 月 31 日に竣工し、S 造（鉄骨）平屋建て約 300 m<sup>2</sup>でトレーニング室、倉庫、シャワー室、更衣室とシンプルな造りになっていました。総事業費は、1.3 億円（沖縄振興特別推進交付金活用）です。備品は、トレーニング器具の他に利用券売機、体重計、血圧計、AED 等で必要なものだけを備えているようでした。

運営は、指定管理者として那覇市体育協会を選任して野球場等を含めた奥武山公園内の運動施設を管理・運営をしているとのことでした。年間利用者数は、15,000 人前後で直近の 2 年は、コロナの影響と近隣に 24 時間対応の民間トレーニングジムが増加したことにより約半減になっているそうです。

トレーニング室については、規模的にも葉山町にも設置、建設できるレベルだと思いました。建設には、南郷上ノ山公園等を含めた指定管理制度の導入により実現可能性を調査したいと思います。

### ◎その他の現地踏査

- ・ 沖縄市 沖縄アリーナ
- ・ 西原町 西原マリパーク
- ・ 首里城公園（再建中）
- ・ 対馬丸記念館
- ・ 平和祈念公園



### 沖縄県うるま市視察報告

笠原俊一

7月13日沖縄本島の中央東海岸に面するうるま市の議会キッズノート及び水上バイク隊及び手話隊について視察した。

#### うるま市の位置図記載①

都市形態は離島地域を含め大部分が海岸に面し、肥沃な農業地帯と産業振興の拠点である中城湾新港地区及び大型店舗等を含む、商業地帯で形成されている。平成17年4月1日2市2町が合併しうるま市となった沖縄県の中核市で議員数30人。

令和4年4月現在 人口125,570人・55,333世帯であり、市南部の中城湾につきだした勝連半島からは、平安座島に4.7kmの海中道路は絶景で、その先の宮城島・伊計島・浜比嘉島へのアクセス道路としてそれぞれ橋梁で結ばれている。また、船舶で結ぶ離島の津堅島や勝連城跡などの観光名所もあり、半島先端には米軍・自衛隊施設があるホワイトビーチが西海岸と異なる絶景の街である。

今回研修場所は勝連半島の中央丘陵にある与勝消防署の2階で行われ、

1 議会事務局議事課金城課長・伊禮係長から

キッズノートについて説明を受けた。

うるま市議会や行政の仕事内容についてわかりやすく写真やイラストなどを使い、紙面として学習教材や子供向けに議会広報特別委員会が編集作成したものです。行政面積や離島を含めて議会活動の住民理解度をたかめるために作成されたものです。

## 参考写真②

2 うるま市消防本部 新垣消防長・石川警防課長から

水上バイク隊・手話通訳隊の設立経緯と概要について説明を受けた。

機能別消防団として、平成 28 年 7 月、それぞれの能力や技術を生かし特定任務に限り従事する団員として任命する制度。

A 現在の構成員は市観光業者・水上バイク販売・修繕業者からは水上バイク隊構成員数 8 名。

B 市役所勤務の会計年度任用職員 2 名の手話通訳隊

C 災害救助犬隊 災害救助犬協会会員 5 名

災害出動や訓練出場、燃料や資材修繕費のみの費用負担で、一般消防団同様の費用負担はないとのこと。

上記 3 機能別消防団以外に、今後は重機を扱う事業者等を団員としたいとのことと地域特性を感じました。



## 視察報告

金崎ひさ

7 月 12 日～15 日、議員有志により沖縄県に行政視察のため出向きました。

12 日は那覇市までの移動に費やし、13 日午前から沖縄市の「沖縄アリーナ」の現地視察を行いました。午後からはうるま市に向かい、「議会キッズノート」と「機能別消防団」についての視察研修を行いました。14 日は西原町の「西原マリナーパーク」の現地視察を行い、15 日は〔那覇市営奥武山トレーニング室〕についての視察研修を行いました。

沖縄県は環境・気候・国からの交付金額など葉山町とは全く違う状況ではありましたが、まちづくりの神髄は県民・市民・町民のためという根底に流れるものは同じだという感を強くした視察でした。持ち帰り、葉山町に反映できることはたくさんあり

ます。

私はうるま市での視察内容についてご報告します。うるま市の与勝消防署において、議会事務局議事課の課長及び係長、うるま市消防本部の消防長及び警防課長が対応してくださり、充実した視察研修となりました。

「うるま市議会キッズノート」は令和3年5月6日に作成をして、当時はうるま市が第1号でしたが現在では県内11市が作成しているそうです。市議会のことを小学生に解るよう説明をしたものです。説明文は分かり易く、そしてすべての漢字にルビを振っています。議会広報特別委員会で令和3年2月に予算をかけずに「キッズノート」を作成しようと決定し、県議会にならって、事務局が案を作ったそうです。完成したものは、ホームページに載せ、全く経費は掛けていませんでした。どの程度市民に見られているかは、ホームページ管理者がアクセス数をチェックしているそうです。議会としての活用は、3年に1度開催される子ども議会のオリエンテーション資料とし、また、議会への社会見学の際の資料にもなるそうです。中高生対象には13頁のガイドブックも作成しているそうです。私は葉山町の議会広報常任委員会の委員なので、次回の委員会で作成の提案をしてみようと思っています。

「機能別消防団」とはそれぞれの能力や技術を活かし、特定の消防団活動や時間の許す範囲で活動する団員のことです。「水上バイク隊」と「手話通訳隊」「災害救助犬隊」がありました。平成28年7月に消防団規則を全部改正し、「機能別団員」を明記しました。県内初の試みでした。団本部に属し、消防団の日頃の訓練に参加する必要はなく、その機能に合わせ、必要に応じての出動になります。

葉山町においても、海に携わる人々が多く「水上バイク隊」を取り入れることは可能ではないかと思いました。そして、救急車出動の際、言葉の通じない事例があるとの報告を受けたことがあります。手話通訳のみならず、多言語通訳も含めて「通訳隊」としての災害時等の後方支援態勢を整えることができればあらゆる町民に寄与できることと思います。参考にしたいと考えています。

うるま市消防長は今後「重機隊」を結成したいとの夢を語っていらっしゃいました。夢を現実にする努力をしている姿勢に感銘を受けました。



## 視察報告（2022年7月12日～15日） 土佐 洋子

### ・沖縄市沖縄アリーナ

2020年6月に竣工した沖縄アリーナはプロバスケットボールチームである、琉球ゴールデンキングスのホームです。沖縄アリーナは、来場する人々や主催者の利便性に重きを置いた「観る」ための施設だそうです。すり鉢状に配置された観客席は、エンタテインメントの体感を高め、その熱気と喜びが観客を興奮へと導きます。また、おもてなしを実現できる多様な設備が整っており、お客さまへより質の高いエンタテインメント体験を提供することが可能です。沖縄市長の公約で8年越しで作られ、建設費162億円のうち130億円が補助金で、防衛費と機密費が入っているとのこと。年間6,400万円で指定管理をしています。

沖縄で盛んだった闘牛場だったところに建設されて、災害時の避難所ともなる。視察をした週末には、B'zのライブが行われるようで準備をしていました。

フロアごとに観客席が違い、来場者の楽しみ方に応じて、それぞれにあったホスピタリティを提供している。VIPエントランスは1階にあり、VIP専用エントランスからは、一般のお客さまとの動線と別のルートでVIP専用スペースへ移動することが可能で安全性も確保され、ラウンジも利用することもできる。

アリーナの天井から510インチの大型映像装置が吊り下げられており、演出に活用できる。なお、大型映像装置の配置位置は、水平方向と鉛直方向に移動が可能だそうです。

「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」が2023年8月に実施されます。この大会は、フィリピンとインドネシア、そして日本とFIBAとしても初めて3カ国共同開催となる大会だそうです。

アリーナの規模にただただ圧倒いたしました。その何分の1でも葉山町にできないものかと思います。



### ・うるま市議会「キッズノート」

キッズノートは議会を身近に感じてもらうため、開かれた議会を目指して議員からの提案で、議会事務局が沖縄県議会などを調査して取りまとめ、議会広報特別委員会で編集したものです。予算をかけずに冊子にはなっておらず、ホームページの掲載のみです。小学校が議場見学をするときに利用しているそうです。キッズノートは小学生が対象ですべてフリガナがふってある。中学生高校生用には「ガイドブック」がある。

ぜひ葉山町でも「キッズノート」と「ガイドブック」作りしたいと思います。

### ・うるま市消防本部 機能別消防団

平成 28 年 7 月にうるま市消防団規則を全部改正し、特定の任務に限り従事する団員を「機能別団員」として配置できるよう制定しました。基本団員と同等の活動（火災の鎮圧・火災の予防と警戒・救助など）が出来ない方が、入団時に決めた特定の活動・役割及び大規模災害時等に活動する団員です。うるま市消防本部には機能別消防団に水上バイク隊・手話通訳隊・災害救助犬隊があります。

水上バイク隊はうるま市内の水域（海、河川）で発生した水難事故への後方支援活動、大規模浸水災害が発生し、救助を必要とした場合への対応、水上バイクを活用した消防職員や消防団員との訓練への参加などがあります。

手話通訳隊はうるま市内で発生した大規模な災害において、聴覚障害者が被災した場合への対応、消防職員や消防団員への手話に関する訓練があり、資格のある市職員が登録しているそうです。

災害救助犬隊の構成員は災害救助犬協会員の 5 人で、うるま市内の災害現場、うるま市が実施する訓練場所で活動します。市内に警察犬の訓練学校があるそうです。

かねてから、町でも条例改正をして機能別消防団を設置できないかと提案しています。消防団あつての町の消防と感じています。

### ・浦添市クリード西原マリンパーク

海水浴や各種マリンスポーツが体験できる全長 550 m の大型ビーチをはじめ、バーベキューを楽しめる大型休憩舎、サッカー場、野球が 2 面とれる多目的広場、子どもから高齢者まで楽しめる軽スポーツ広場など、多彩なレジャーを満喫できる大型の複合型海浜公園です。公園でバーベキューを行う場合は、器材・食材の持ち込みは禁止で、手ぶらで楽しむことができます。

県の施設だけれど、委託料はもらわないで運営をしている。沖縄県東海岸唯一のマリンスポーツエリアということで、お客さまのほとんどは地元の方々だそうです。

海を快適に楽しめるようにシャワー室や更衣室が完備されているが、やはり海岸にはせめて足洗い場くらいは必要だと思う。

### ・那覇市営奥武山トレーニング室

那覇市政 100 周年の昨年オープンした「なは〜と」での、議会 DX 研修会に参加したときに、那覇市の副市長さんにお会いして、今回の視察をお願いすることができました。那覇市の職員さんたちに親切丁寧に対応していただき、特にスポーツ課の課長さ

んは3月まで副市長室にいらっしゃったそうです。

巨人軍の春季キャンプの受け入れ当初はトレーニング室がなく、野球場内の会議室3部屋を利用してトレーニング室として代用していたそうです。那覇市ではスポーツコンベンションと魅力向上、巨人軍キャンプや大学・企業の環境を整えて、市民の健康増進を図ることを目的として、那覇市奥武山野球場の敷地内にプロ野球選手・市民・県民が利用できるトレーニング室を建設しました。

わたしも何度も利用したことがあるけれど、コンパクトな施設に、プロスポーツ選手仕様の本格的なトレーニングマシンが完備されています。

体育館もプールも何一つない葉山町・・・8月にヨットの世界選手権に出場する高校生が、「どこにもトレーニングするところがない!? 学校では部活に入っていないので利用させてもらえないし、町内には何もない」と、嘆いていた。

町でもこのサイズのスポーツ施設ならば可能と思う。ぜひ町民の健康のためにも必要である。

#### ・那覇市 対馬丸記念館

対馬丸記念館は、対馬丸事件の犠牲者の鎮魂と、子供たちに平和と命の尊さを教え、事件を正しく後世へ伝える為に対馬丸撃沈から60年目に沖縄県那覇市に開館しました。

魚雷攻撃に遭い海に沈んだ軍艦対馬丸・・・戦争末期に沖縄から県外へと疎開するよう指示があり、対馬丸は学童集団疎開の子どもたちをたくさん乗せて那覇港を出港。その次の日に米潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃により海に沈められ、乗船者1,788人のうち約8割の人々が海底へと消えてしまいました。

沖縄県は、令和4年に本土復帰50周年を迎えました。この大きな節目のときに、この記念館を訪れることができたことはとても意義があります。



以上